

YAさんへのインタビュー (no. 041)

<プロフィール>

- ・京都女子大学 現代社会学部出身 ブライダル会社1年目 YAさん (女性)
- ・アルバイト先の元先輩
- ・サークルには入らず百貨店で販売のバイトをしていた。

内定：2つ HIS、TAKAMI

エントリーシート：約20社

(ほぼ全て突破、内定が早かったため実際に受けたのは数社)
旅行会社、アパレルが中心

なぜ就職先をそこに？

面接官、一緒に面接を受けた人たちがよかったから。このブライダル会社をうけるきっかけが、説明会で足が痛くなりしゃがんでいたら、会社の人心配して声をかけてくれたのがきっかけだったそう。

会社選びで大切にされたことは？

顧客をつくるところで働きたかった。また、説明会や実際に店舗に出向き、雰囲気や人が自分に合っているとあったところを選んだ。

エントリーシートを書くときに気をつけたのはどこですか？

会社のモットーと自分の会社選びで大事にしていることが一致しているよう気がつきた。自分はこうゆう人になりたくて、その環境がこの会社ですなど。就活本なども少し見たが、結局は自分の言葉で書くことが大切だと思う。

面接どうでしたか？

変にもさくせず、化粧もきちんと感はだしつつ普段どおりにした。業界に合わせるが、

自分の雰囲気を生かしたらいいと思う。あと、何を聞かれても目を泳がせないよう気をつけた。

就活を終えてどうでしたか？

受けた面接がかぶってしまうことくらいで、割とすぐ終わり、あまり大変だったというイメージもない。また、後悔もない。自分が何をしたいのかを見つける方が悩んだ。しかし、就活を通して、自分がどんな人間か、どんな生き方をしてきたかが少しわかった気がする。また就活中に友達ができたのがよかった。

後輩へのメッセージ

とにかくイベントや説明会に行って話をたくさん聞いてみたほうが良いと思う。話を聞いてみないと興味があるかどうかもわからない。また、名前を知っている会社でも実は子会社かもしれないし、逆に知らなかったが自分が興味をもてる会社がでてくるかもしれないから。

感想

私は就活を「行きたい会社にいかに入れてもらうか」という視点で考えていたが、先輩のお話を伺って、「自分は何がしたいか、どうありたいか」という基準を持って私たちが会社を選ぶものでもあるんだと思いました。選ばれるだけでなく、自分の方向性を自ら選ぶものだという視点に立つと、やる気がわきました。

Y Bさんへのインタビュー (no. 042)

<プロフィール>

- ・同志社大学 社会学社会学科4回生 Y Bさん (男性)
- ・ゼミの先輩
- ・体育会ハンドボール部
内定：なし (現在は警察学校に行こうと考えているそうです。)
エントリーシート：約50社

なぜ就職先をそこに？

始めはインフラ、金融を志望していた。電気やお金は社会にないと困るものだし、社会とのつながりが深いと考えたため、これらの業界を選んだ。その他にも、機械メーカーや旅行会社など大手を中心に受けたが、お友達のお父さん(警察官)と飲みに行った時に警察の仕事内容を聞きやりがいがありそうだと思います警察を志望した。警察も社会・地域とのつながりがもてる仕事であるし、京都にいられるからということもあり警察学校を受けることにした。

会社選びで大切にされたことは？

関西に入れること。社会に貢献できる仕事であること。

エントリーシートを書くときに気をつけたのはどこですか？

エントリーシートでは学生時代頑張ったことについてか自己PRを問われることが多く、去年は自己PRを問う会社が多かったのに対し、今年は学生時代について問う会社が多かった。気を付けたのは、短い文章で具体的に書くこと、企業研究で得たことを絡めて書くこと。また、自己PRではあまり自信満々に書きすぎても駄目だと聞いたので、今はここがダメだけどうして補っていきたいという風にした。

面接どうでしたか？

集団面接以外は楽しかった。集団面接だとあまり話せないため、じっくり話せる個人

面接のほうがやりやすかった。「大学生活に点数つけるなら何点ですか？」とか聞かれた。

面接時に「不景気なので企業は採用しにくいですか？」と聞いたところ、今年は不景気でみんな就職したいという意思是強く志望動機が似たり寄ったりになってしまっているため、人事の人は熱意や人間性がみたいと言われたそうだ。

就活を終えてどうでしたか？

四月に入り、面接が毎日続くのが大変だったが、うまくいかず落ち込むということはない。周りのみんなは落ち込んでいたが、じぶんは不景気のせいにしてあまり気にしなかった。しかし、もっとまじめに早く取り組めばよかったという後悔はある。SPIも勉強しておけばよかった。就職活動を通し、当たり前だがあいさつなど小さい気遣いや努力が大切だと改めておもった。今は面接が一つ残っているが、警察学校へ進むことを楽しみにしている。

後輩へのメッセージ

やっぱり自分がやりたいことを早く見つけるのが大切だと思う。内定者が就活生の9割いたとしてもそのうち行きたいところに行けた人は2割程度だそうで、早く行きたいところ、やりたいことを見つけ、そのための対策と研究を早めに始めることをお勧めします

感想

先輩はもともと社会とつながりを持てる仕事がしたいという考えを持っていたので、企業の就職活動がうまくいなくても、警察学校という進路にスムーズに切り換えられたように感じた。お話を聞かせてもらい、自分が何をしたいか早く見つけるのが大切だとおっしゃっていたように、自己分析はしておく必要があると思った。

Y Cさんへのインタビュー (no. 043)

<プロフィール>

- ・同志社大学 社会学社会学科4回生 Y Cさん (男性)
- ・ゼミの先輩の友人
- ・野球サークルに所属 企画係
内定：1つ (近畿大阪銀行)
エントリーシート：36社 (金融・インフラ中心、メーカー数社)

なぜ就職先をそこに？

お金まわりに興味があったこともあり金融を志望した。また、関西にいたいということもあり地銀を中心にエントリーシートを出した。現在の内定先に決定したのは、最終的に残ったのがここだったから。内定が出た瞬間に就職活動をやめた。

準備はしましたか？

自己分析は就活直前に友人と集まり、自分の長所や短所について話した程度しかしなかった。また、新聞は日ごろから読んでいたので時事対策なども特にしなかった。読んだほうがいいとよく言われるが読んでなくても大丈夫だと思う。説明会にはよく行った。周りも皆行ってたので行かないと始まらないという感じで行っていた。

エントリーシートを書くときに気をつけたのはどこですか？

エントリーシートでは自分について(長所・短所)や学生時代に力を入れたことについてよく聞かれた。初歩的なことかもしれないが、文字はできるだけ丁寧に書くよう気をつけた。また、話が広がりすぎて分散しないように、一貫性を持って簡潔に自己PRにつなげられるよう書いた。また、志望理由がはっきりとあったわけではないがとりあえず受けた会社では、志望動理由に困り、そういう時に就活本が役立った。

面接どうでしたか？

面接では緊張することは特になかった。どうにかなるだろうと思って行っていたので緊張はしなかったが、もう少し考えてから臨めばよかった。事前の自己分析があまりできていなかったため、答えている最中に自分でもうすっぺらいことを言ってるなと思っ

てしまった。

就活を終えてどうでしたか？

就活を通し、周りの人の大切さが本当に分かった。ES ではほぼ受かったが、グループディスカッションや面接に進むにつれだんだん残っている会社が減ってきて焦った。やはりうまくいかなくなるとストレスもたまっていき、そういう時には、友人と話して発散した。普段はまじめな話ほしない友人とも就活を通し、いろんなはなしができたのでよかった。就活は一人でやると落ち込んだりしんどくなったりするので、できるだけ友人と会ったほうが良いと思う。

後輩へのメッセージ

世間的には就職氷河期だと言われているが、初めて就活をする上では氷河期以外なんて知らないし、プラス思考で自分を売っていったらいいと思う。うまくいかなくてもへこむ暇があったら ES を書け。へこんでも状況は変わらないので友人と話してストレスを発散しよう。そんなに就活…就活…就活…と考え込まなくてもいいと思う。

感想

やっぱり、なんとかなるというプラス思考は大事でも、楽天的になりすぎて準備をしないのはだめだなと思った。なんとかなるよという話もよく聞くが、プラス思考と油断は別だなと…。YCさんも面接について答えてくださっているよう、自分をアピールする上で、自分が考えていることや性格についてちゃんと整理して、自分自身で理解していることが大切だと感じた。就活は煩わしいが、今後の自分の成長につながっていくものにしたい。

Y Dさんへのインタビュー (no. 044)

<プロフィール>

- ・同志社大学 社会学社会学科4回生 Y Dさん (男性)
- ・ゼミの先輩
内定：2つ (福屋工務店、住友不動産販売)
エントリーシート：約50社 (マスコミ、食品メーカー、不動産)

なぜ就職先をそこに？

第一志望は関西のテレビ局などマスコミ関係を志望していた。しかし、家業が不動産屋だったこともあり、不動産は倒産のリスクが大きいともいわれるが、将来家を継ぐことも考えたため、不動産にもエントリーした。テレビ番組にしる、不動産にしる自分が作ったもの、売ったものを客観的に自分の成果として見えるところがよかった。また、勤務地が関西であるということも頭に入れていた。最終的に住友不動産販売に就職すること決めたのは、住友のほう規模が大きく、ネームバリューがありお客さんも信頼してくれるだろうと考えたから。また、転職することも考えたため、大手の住友のほうを選んだ。

準備はしましたか？

TOIECは受けたが実際はそんなに必要なかったように思う。就活の準備としては、おもに就活本を読んでいた。マスコミは早くから就活が始まるため、準備は早くから始めたほうだと思う。自己分析も本を使ってした。しかし、本を読んでも余計に迷ってしまうので読まなくていいと思う。

エントリーシートについて

自己PRはひとつ作り上げてしまえば使いまわせるが、志望動機は企業によって変えなければいけないので大変だった。期限に追われるが、一晩で書いてしまうとダメ。やはりねりあげて作ったものが通った。ESを読む会社と読まない会社があると思うが、最初に結論を書くことや、色づかい、文字の大きさなどを工夫した。最初がだめなら読んでもらえないので、読み手に関心を持ってもらえるように意識した。学生時代のエピソードを書く場合には、バイトなら一日〇〇円売り上げたなど、具体的な数字を入れる

と内容に現実味が出ていいと思う。

面接どうでしたか？

男学生はしっかり落ち着いて見せようとする人は多くても、にこにこしている人が少ないので、めっちゃ笑ったらだめだった。笑顔はいいが笑いすぎにご用心。しかし、緊張しすぎるとだめだと思う。面接には、あらかじめシュミレーションして臨んだ。1の話を10にして大げさに話したりするが、深く聞かれたときにシュミレーションしてないと困ってしまうから。最終面接やその手前になると、あえて少し砕けた表現をしたりした。

就活を終えてどうでしたか？

大変だったことは？

お金がかかること。ストレスが溜まると実家に帰り愛犬と戯れ癒された。

後悔は？

もっと数を出しといたらよかった。

得たものは？

コミュニケーション能力の大切さを知った。誰とでも話せるようになったと思うし、人として大きくなれた。

後輩へのメッセージ

大企業にこだわらずやりたいことをできるかどうかで会社を選んだらいいと思う。やりたいと思った事なら中小企業でも続くが、大企業の名前で入ってしまったらやりたいことができず辞めてしまうかもしれない。自信をもって(面接でも自然と見えてしまうし)大げさに言って大丈夫！

感想

ユーモアがあり話しやすい方で、楽しいインタビューだった。ESの書き方など、図を書いて説明して下さったりためになった。きっと面接でもYDさんの和やかな雰囲気がかわれたのかなと思った。就活本はあまり読まないほうがいいとおっしゃっていたが、準備をしっかりしていたという意味では結果的によかったのではないかと感じた。

YEさんへのインタビュー (no. 045)

<プロフィール>

- ・同志社大学 社会学社会学科4回生 YEさん (男性)
- ・ゼミの先輩
内定：1つ (月桂冠)
エントリーシート：約60社 (機械・食品などのメーカー、インフラが中心)

なぜ就職先をそこに？

サービス業よりもものを作り、それを自分の会社で売る仕事がしたかった。企業選びのときには一応最低限のお給料と「働きやすさ」を重視した。ブラック企業（残業代でない、休みなし）は嫌で、ネットを見たり、就活を通して話を聞いていくうちに分かっていった。一生働ける会社が良いかったため、四季報で勤続年数・離職率・平均年齢を見て参考にした。月桂冠は京都の会社ということでたまたま出していた。

準備はしましたか？

全然してない。就活が始まってから本を買ったりしたがあまり役立たなかった。SPIで落とされたりもしたので、SPIの勉強はしておいたほうがいい。

エントリーシートについて

締め切りがかぶってしまうのが大変だった。手書きのところ期日までに書いて送らないといけないので気をつけた。期日ぎりぎりに届いたのではもはやアウトという話も聞いた。ESを書くときの参考になるので、説明会に行ったときはその会社の特徴や、人事の人がアピールしているところをメモしていた。その会社のアピールポイントが同業他社とどう違うのかを意識して書いた。

面接どうでしたか？

日清では変な質問ばかりされた。(いままで食べたもので一番おいしかったものをおいしさが伝わるよう答えてください、自分を物に例えると何か、宣伝部長になったとして商品をPRしてくださいなど。)面接は数をこなしてくると慣れてくるし、似ている質

間もあるので多少の嘘も身に付いてくる。話す内容よりも、話の切り返しなど頭の回転の速さを見られているのではないかと感じた。女の子を顔で採る会社もあるが、そんな会社はいいところじゃない。

就活を終えてどうでしたか？

大変だったことは？

始まったころは、説明会が毎日あるのが大変だった。説明会に行かないとESをもらえない会社もある。ESを書き出してからは徹夜続きだった。(2、3月)4月になると説明会やESは減るが、面接が増えた。面接では落ちた理由が分からないので精神的にもやもやする。しかし、落ち込んでいる暇はなかった。

後悔は？

もう少し早く始めればよかった。始めたのが遅かったため、すでにESが閉め切られているところもあった。SPIの勉強も必要だと思う。

得たものは？

会社についていろいろ勉強するのを通し、社会が少し理解できた。また、精神的に強くなった。

後輩へのメッセージ

やりたいことを見つけろというのが、やってみないと分からないので、とりあえずいろいろ動いてみよう。始めは就活の実感がわからず、面倒でも説明会などには行ったほうがいい。最後は精神力との戦いになると思うが、あまり力を入れず頑張ってください。

感想

やりたいことを重視して会社を選んだというYDさんに対して、「働きやすさ」を重視したYEさんは対比的に感じた。私も転職願望はないので、一生働ける企業の選び方という面で参考になった。また、企業の説明会でESを書くことを頭に入れてメモをとられていたというお話すごいなと思った。SPIは学歴で学生を足切りするための手段だとも聞くが、きちんと勉強しておきたい。

Y Fさんへのインタビュー (no. 046)

<プロフィール>

- ・京都女子大学 現代社会学部出身 社会人一年目 Y Fさん (女性)
- ・アルバイト先の先輩の紹介
- ・学生時代はサークルには入らずアパレルの販売やイベントコンパニオンのアルバイトをされていたそうです。

内定：4つ (日本電産、京セラなど機械メーカー)

エントリーシート：約40社 (金融、メーカーなど)

なぜ就職先をそこに？

社会人になって友達と遊べなくなるのが嫌だったため、金融やメーカーなど土日休みの業界を選んだ。アパレルのアルバイトをずっと続けていたためアパレルへ進むことも考えたが、親に反対された。しかし、就活をしているうちに、自分は人と接する仕事よりも B to B (会社同士のやり取り) の会社のほうが向いているように思い機械メーカーを志望していくようになった。また、4つの中から日本電産に就職することを決めたのは、減給はあっても首切りはしない、掃除も自分たちですするという会社を皆で支えていく社風に惹かれたから。

エントリーシートについて

ESは80~90パーセントは通過した。自分の頑張ったこと、学んだことについて聞かれることが多かった。内容に一貫性を待たせることと、前向きな内容になるよう気をつけた。

面接どうでしたか？

面接を複数の学生で受けるときには、質問されたら答えを準備していない質問でもとりあえず手を挙げた。本当にすごく手を挙げた。はきはき元気よく答えることに気をつけた。また、最後になにか一言ありますかの質問には、必ず必死な感じで熱意をもって答えた。この最後のアピールは本当に大事だと思う。企業側からのフィードバックでも、しゃべる内容がとにかく前向き、熱意が伝わった、挨拶の声が大きくて元気がよかったと言って頂けた。

服装はシンプルなスーツだったし、髪色ものりのように黒くしていたが、メーカーは男性社員が多いのでかっこいい雰囲気よりも女性らしい雰囲気が受けると聞いたことがあったため、毛先だけ巻いたりして可愛らしくしたつもり。

就活を終えてどうでしたか？

大変でしたか？

就活は4月のあたまに終わり期間的には短かったほうだが、とにかくしんどかった。二度とやりたくない。就活のためアルバイトを半年休んでいたため、そればかりになってしまい、うまく息抜きができなかったのかなと思う。

後悔はありますか？

総合職事務系で受けたはずが、今は理系院卒のひとに混じって技術職の設計の部署に配属されている。女の子一人ぼっちで思っていたのとギャップがある。いきなり不景気になったことによって人員配置がうまくいかなかったそう。なので、どの部署に行くことになってもいい会社を選べばよかったと感じている。

得たものは？

自己分析ができてよかった。自分がどんなことを重要視しているか、どんな人生にしたいかなど就活を通し考えることができた。また、両親が公務員をされていて真面目なため、学生時代には「あんたは遊んでばかりで」といつも言われていたが、「頑張ったね」と言われ認められた気がして嬉しかった。

後輩へのメッセージ

企業選びは慎重に。休みや仕事内容など、自分の中で譲れないと思うポイントを決めてやったらいいと思う。しんどくなったら、こっだけ苦労しないといい社会人になれない！試練だ！と思って頑張ってください。

感想

企業からも言われていたように、元気がよくてすごくはきはきした方だった。Y Fさんは面接では全戦全勝ただけであり、話す姿勢だけでなく聞く姿勢もさすがだなと思った。以前インタビューをさせて頂いたY Aさんとほぼ同じ期間に就活をされていたにもかかわらず、感想が全く逆だったのに驚いた。すごくしんどかったとおっしゃっていたが、二度とやりたくないくらい一生懸命されたからこそだと感じた。

Y Gさんへのインタビュー (no. 047)

<プロフィール>

・京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 生体分子工学専攻 2回生 Y Gさん(男性)

・学生時代は体育会男子ラクロス部に所属し、学部4回生のときには主将を務めました。

内定：2つ (Y社、O社)

エントリーシート：約30社 (化学メーカー、素材メーカー、製薬など)

なぜ就職先をそこに？

私は中学時代から化学の力で社会に貢献したいと考えてきました。そのため、化学メーカーを中心に技術職で、自由応募で就職活動をしました。

会社選びの軸としては、①社風、②勤務地(実家から通えそうな所)、③収入、④会社の規模などといった感じです。

内々定は2社からいただきましたが、第一希望の会社は3月に全滅してしまっていたのでどっちにするかかなり悩みました。

私は個人的に同期が多い方が良いかなと考えていたので、最終的には規模の大きな方を選びました。

準備はしましたか？

まず夏休み明け位に、企業が開催する合同説明会に行きました。そこで多くの就職生を目にする中で、これから始まるんだなと実感できました。

学校で開催される就職ガイダンスに参加したり、本屋で就活本を買ったりなどしました。自己分析は何回も繰り返し、振り返ることが大事だと思います。履歴書に書く自己PRなどは何回も作りなおしました。

エントリーシートについて

会社によって向き不向きがあるかもしれませんが、私はシンプルにこだわりました。

自己PRは部活動で頑張ってきたことを全面に出して、「努力・体力・根性」を決まり文句のようにしていきました。志望動機もシンプルに。

面接官が会ってみたいと思わせるように書くことが大事だと思います。

面接どうでしたか？

私は特に、①大きな声、②さわやか、③熱意といった点に注意して面接に臨みました。シュミレーションも大事ですが、慣れは絶対必要だと思います。友達に練習相手になってもらったり、志望度の低い会社で面接の練習をするのも手です。

就活を終えてどうでしたか？

大変でしたか？

就活を始めた頃は、まだわからないことだらけで、常に焦って疲れていた記憶があります。取り組むのは絶対早い方が良いです。

実験と就活を両立するのは、時間的にも体力的なものすごく大変でしたが、何にでも一生懸命する方が結果はついてくると思います。

後悔があれば教えてください。

もっと早い時期から始めておけば良かったと思います。

就活を通し得たものは何ですか？

就活は社会人になるための良い準備期間だと思います。自分を見つめなおし、もっともって現代社会に目を向けていくことで、社会人に対する期待が高まっていくと思います。

あと、最後まであきらめず頑張れば、心も体もタフになれると思います。

後輩へのメッセージ

①早くから取り組む。

②さわやかアピール。

③あきらめない

とにかく頑張るのみです。

今年は不況で厳しいと思いますが、そういう時期こそフレッシュな人材が欲しいはずです。自分に自信を持って充実した時間を過ごしてください。

感想

国立理系の大学院生ということで私立文系の学部生の私たちとはまたちょっと違う就職活動だなと思いました。面接の回数も少ないようでしたし、質問内容もされていた研究について詳しく聴かれたりと違うのかなといった感じでした。しかし、自分のアピールポイントをしばって面接に臨むなどはすごく参考になると感じました。

YHさんへのインタビュー (no. 048)

<プロフィール>

- ・京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 高分子機能工学専攻 2回生 YHさん
- ・学生時代は軽音楽部(学祭副代表)、フットサルサークル(副将)をやっていました。
内定：2つ (積水化学工業 東洋紡績)
エントリーシート：約25社 (化学業界 繊維業界)

なぜ就職先をそこに？

専攻が化学・繊維だったので化学系のみで就活を行った。
不況のまっただ中だったので、社員が不況に対して他人事の会社や、不況でも変われないと感じた会社は辞めた。団結力のある会社、独自のシステムがある会社に惹かれた。最終的には忙しくても自分が楽しく出来そうな会社にした。

準備はしましたか？

人より差を付けることを前提とし先輩から昨年の説明会でのノートを貰い企業研究を行った。自分で纏め直してみることで、説明会での内容が事前に分かり質問を的確に練れた。

この事は説明会で社員さんに目を付けて貰えたことや面接での質問時間などで独自の視点でアピールできたなどかなり役に立った。

エントリーシートについて

「自己PR」と「志望動機」に特に力を入れ何度も書き直した。当初は、詳しい説明を盛り込みたくてどうしても長めの文になっていたが、途中から「見やすさ」に最も注意し、履歴書等では文章を半分以下に減らした。結果、手書きで書く手間も減り(短いのので間違いが減り、時間も減る)、通過率も増えたように思う。

ただし、同じES、履歴書でも通過するところ、しないところなどがあり通過基準は企業によって別にあると思う。

面接どうでしたか？

まわりと差を付ける事しか考えていなかった。良くも悪くも、とにかく印象のない凡人にはならないようにし、社員の雰囲気をまねた(社員はその人柄、雰囲気ですら会社に採用されている)。また常に声のトーンと笑顔を作った。

自己PR、問題解決方法などが良く聞かれたが社会人が読むような雑誌などから、社

会人には当然のことでも学生は知らない説明を用いて自分がより社会人に近い存在であると印象づけることを意識した。(ex. 壁にぶつかったときには、意識的に色んな人に話をする事によって、積極的に暗黙知を形式知に変えようとし、自分でも気づいてなかった視点を得る。 . etc)

自分は対人の面接の方が ES や履歴書よりも得意だったので、食いつきの良い自己 PR が一端分かればあとは志望動機と逆質問で企業研究の成果をだした。(企業が PR しようとしている内容について深くつっこんだ質問や、絶対に周りが聞かないような質問【中途採用では〇〇という資格が取れると書いてあったが、新卒でも可能か etc】)

就活を終えてどうでしたか？

大変でしたか？

かなり早い段階で決まったとは言え、集中力の欠けた辛い時期があった。

後悔があれば教えてください。

もうちょっと早い段階で履歴書作成方法(【見やすく】が最重要項目)に気づけば良かった。

また ES を書くのは辛くても違う業界も沢山受けてみれば、更に色んな社会人を見ることができて良かったのかなと思う。

就活を通し得たものは何ですか？

沢山の社会人に接する事ができ、「学生」→「社会人」へ意識を変えることができた。中でも飲み会の席や喫茶店などに誘ってくれる社員もおおり、自分を応援してくれていると感じた事は大きな励みになった。

後輩へのメッセージ

社会人に近い学生が受かります。また企業研究をやっている人とやっていない人は調べている内容の差が大きく面接ではすぐにバレると思います。まだまだ学生には厳しい時期ですが頑張ってください。

感想

YHさんのお話を聞かせていただいて印象的だったのが「周りとは差をつける」ということでした。企業研究の仕方を工夫することで周りとは違う質問ができたり、社会人の読む雑誌を読んでいたりとすごくできる人なイメージを持ちました。社会人が読む雑誌に目を通すのは就活だけでなく、社会人になってからも役に立つと思うのでいい参考になった。

Y I さんへのインタビュー (no. 049)

<プロフィール>

- ・同志社大学社会学部社会学科 Y I さん (女性)
- ・学生時代はカメラクラブに所属、アルバイトは歯科助手をされていました。
内定：1つ (地元の地銀 一般職)
エントリーシート：30~40社 (広告、メーカー中心、金融も地銀をいくつか)

なぜ就職先をそこに？

ずっと広告の仕事がしたかった。そのため、社会学部を選んだしメディアの副専攻も取っていた。しかし、今年は広告の求人が少なく難しかった。メーカーは営業以外には入れる部署(宣伝や広報)があるかを基準にエントリーした。メーカーの広報や宣伝も目を向けてつつ、地元で働くことも捨てきれなかった。

金融は親の意向もありとりあえず受けていた。最終的には地元がいいという結論に達し、最後のほうは地元でしか就活をしてなかった。地元の広告会社も最終まで行ったが、将来を考え金融を選んだ。銀行はお給料や定時に上がれることなど条件がよく、地元に戻るとなると銀行も人生の選択の一つかなと思った。

地元企業はどうやって探されましたか？

地元の就活サイトに登録したり、キャリアセンターの仕事蔵などを活用した。また、自分でインターネットで検索し、会社のホームページをいろいろ見た。

準備はしましたか？

インターンは受けたが行ってはいない。自己分析は友達と集まって長所や短所などを言い合った。大学の友達、バイトの仲間、地元の友人など違ったコミュニティでやったほうがいいと思う。またキャリアセンターのイベントに参加したりした。

エントリーシートについて

質問に対して、自分の力がどう生かせるか、持ち味はなにかに意識した。また、文字の大きさや色遣いなどいかに読んでもらうかに気をつけて書いた。質問で、自分が何がしたいか、どんな自分がいいか問われたことがあり、30 過ぎには仕事もして子供も産

んでいたいと思った。その時、地元の銀行だと産休・育休がしっかりしていたこともあり、銀行もいいかなと考えるようになった。

面接どうでしたか？

緊張はしたが面接官の雰囲気も思っていたより柔らかかった。年配の男性が面接官のことが多いので、おじさん受けする子が受けるような気がする。聞いた話だが、若干前傾姿勢くらいのほうが意欲が感じられて効果的らしい。

就活を終えてどうでしたか？

大変でしたか？

広告・宣伝、メーカーはもともと採用が少ない上に、不況で使用枠が減ったことや女の子は不利なので苦戦した。はじめは地元と関西と両方で就職活動をしていたため時間もお金もかかった。

後悔があれば教えてください。

大学生活のなかで話のネタになるような経験をたくさんして自分の中の幅を広げておけばよかった。

後輩へのメッセージ

行きたい所だけにしぼると、もし決らなかつたらすごくあせるので女の子は特に金融の一般など採用人数の多い所を受けてみてもいいと思う。なんとなくでも受ければ面接の練習にもなるので。頑張ってください。

感想

私も地元に戻るか関西にいるかで迷っているので、Y I さんのお話はためになりました。地元の企業を探す方法など聞きたいことが聞けてよかった。はじめてお話したのにもかかわらず優しく答えてくださった。しかし、つっこんだ話をもっと聞けたらよかったかなとも思う。

Y Jさんへのインタビュー (no. 050)

<プロフィール>

- ・京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 Y Jさん (男性)
- ・学部生時代はサッカー部主将をされていました。
内定：1つ (トステム)
エントリーシート：13社 (化学メーカー)

なぜ就職先をそこに？

今、化学を専攻していて将来的にも続けていきたいと考えていた。化学の楽しみも知っているし、化学を通じて社会に貢献したいと思った。そのため、はじめから化学メーカーにしぼって就職活動をしていた。また、大手もほうがいろいろな仕事ができることや、社会に与える影響が大いなので大手を中心に考えていた。会社の雰囲気やブラック企業といわれる会社であるかどうかなどはあまり気にしなかった。

準備はしましたか？

特にしなかった。自分のやりたいことは決まっていたし、やりたいことができる会社ならばどんな会社でも何とかやっていけそうな気がしたので、合同説明会などにもほとんど行かなかった。準備は学部生と院生では違うのかもしれない。

エントリーシートについて

できるだけ時間をかけて書いた。その企業のことをよく調べることで、深い内容が書けると思う。

面接どうでしたか？

面接には何段階かあった。最初は複数対複数でおこなわれ、それに通ると1対1、最後に面接官複数対1人になった。複数対複数ときは緊張しなかったが、1対1になるとさすがに緊張した。面接で気をつけたのは雰囲気にのまれないこと。圧迫面接も「気楽にやってください」といわれる面接でも同じようにしないといけないと思う。「楽しんでください」と言う言葉に甘えてはいけない。その言葉を言ったあとの学生の反応も見られていると思う。

就活を終えてどうでしたか？

大変でしたか？

なかなか決らなかつたことがつらかつた。そういうときは同じような境遇の仲間と話していた。また、東京と京都の

後悔があれば教えてください。

最初にもっと出しておけばよかつた。たくさん受けなくても大丈夫だと思つても、受けて損はないので受けておけばよかつた。

就職活動を通して得たことはありますか？

就職活動は自分の今後やこれまでについて考え直すわけだから、自分のことを理化する機会になつた。また、自分を表現する能力がついたと思う。

後輩へのメッセージ

就職活動はやっているうちに慣れてくるので、いかに早く慣れるかだと思ふ。練習で受けるのも必要。面接は受ける度に、ここはこう話したらいいとか自分への課題が見つかるのでそこを改善していくことで学べる。早い時期に受けるものは大手だが、遅くなってくると会社の規模は小さくなることが多いので、生きたいわけではない会社でも経験と思ひ受けた方がいい。自分は

すべてが本命のとおばかり受けていたため、毎回本番だつた。就職活動はみんなやつてゐることで、みんな落ちるし、みんな辛い。同じつらさを感じている人はいっぱいいるから、それを思つて頑張つてほしい。辛いけど…。

感想

企業の雰囲気や社風、ブラック企業かどうかを就職活動において考慮された方おおかつたのに対して、Y Jさんのような考えかたは珍しいように感じた。そのぶんやりたいことが明確だつたんだと思つた。面接に関して、圧迫面接で雰囲気にのまれないように気をつけたという話は聞いたことがあつたが、「気楽にしてください」といわれても油断してはいけないというのは、油断しそうな私にはいい教えになつた。